

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	まちのあそびば
まちづくり活動名	まちの四季遊び
活動地域	中川区 露橋、尾頭橋、広見学区周辺
活動の背景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 「食の安心」や「日本の伝統文化」を大切にしたいと願う保護者が増える一方で、子どもたちが実際にそれらを体験し安心して集える場が不足しています。私たちは、親子が不安なく参加でき、地域の人々と共に四季の移ろいを楽しみながら、持続可能な暮らしの知恵を共有できる場を作りたいと考え、本活動を始めました。
目的・目標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください） ■目的 子どもたちを地域全体で見守り、古き良き日本の季節行事や伝統文化を体験できる「安心な場所」を作る。またオーガニックな食育や手仕事を通じ参加者の健康と環境問題への意識を向上させる。 ■目標 四季にあわせたワークショップやマルシェを定期開催し、伝統や自然に触れる機会の創出。親子・生産者・地域住民がつながるネットワークの構築。 ■成果 安心な食や交流を通じた参加者の心のゆとりと健康意識の向上。子どもたちの郷土愛や自然への関心を育み地域コミュニティの活性化を実現。
活動内容	（上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。） 1、季節を感じる「お祭りマルシェ」 夏祭りマルシェ【伝統体験・安心な出店・昔ながらの遊び】 ・竹の器と箸を作り竹で流しそうめん（麺は米粉麺や白滝などアレルギー対応有）、無添加やオーガニック等に配慮したキッチンカーやテント出店 ・射的やわなげの景品は無添加お菓子やプラスチック不使用花火等を用意 ・無農薬スイカ割り・無農薬梅シロップかき氷・盆踊り ※マイ食器・マイコップ持参を呼びかけゴミの削減を目指す ※次年度以降に冬祭りマルシェも開催目標 2、日本の伝統をつなぐ「季節の手仕事」ワークショップ 名古屋の食文化を軸に、味噌・醤油・麹等の発酵調味料づくり、梅や栗仕事、干し芋や干し柿づくりなどの保存食づくり、しめ縄や門松づくりなどを通じ、日本の伝統を大切に四季に沿ったワークショップを開催。今期は「初めての味噌作り」をおこない味噌と発酵と手作りの理解を深めます。 ※香料の自粛を呼びかけ誰もが安心して過ごせる環境づくりと環境問題への認知向上を目指す

活動予定 期	令和 8 年 6 月 ～ 令和 9 年 2 月		
助成金交付申 請 額	50,000 円	※1 回目（上限 5 万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）	

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
（活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。） 都市部では伝統行事や「食の安心」を伴う体験の場が激減しています。本活動は、名古屋の豊かな食文化を次世代へ繋ぐとともに、多世代が交流できる場を作り出し地域コミュニティを活性化させる大きな力になると考えています。 運営メンバー自身も地域で子を育てる母親であり、日々の暮らしの中で「安心して子どもと参加でき共に学び体験できる場所」を求めてきました。当事者としてのこの想いは、食の安全や育児における孤立に不安を感じる多くの保護者の共感を得やすく、地域住民の理解と協力を得て町を盛り上げるきっかけになると確信しています。 こうした「本物の体験」には、農家さんから直接仕入れる無農薬の農産物や伝統的な道具など相応の経費がかかりますが、地域の誰もが気軽に参加できる「開かれた場」として定着させるためには、参加費を抑えた公的な運営基盤の助けが必要です。本支援を活用することで、地域の皆さまと共に子どもを育む持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。	
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
（活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。） まずは過去に小規模なお祭りやマルシェ、食のイベントを主催してきた経験を活かし、今回の地域向け活動を無理のない範囲から段階的に実施する計画を立てました。 現在、運営メンバーは 4 名ですが、それぞれが食育、イベント企画、広報（SNS 運営）といった得意分野を分担して効率的に運営します。夏祭りのメインとなる『竹そうめんと竹細工体験』については、安全な運営と丁寧な指導を優先し、事前予約制の 30 名規模を想定しています。一方で、活動の広がりを作るため、地域のキッチンカーやテント出店者も公募します。これにより、運営メンバーの負担を抑えながらも来場者が楽しめる賑わいを創出します。資材の調達については、以前より交流のある地元の農家さんと竹林所有者さんの協力を得られる体制が整っており、質の高い素材を安定して確保できる見込みです。 資金計画においても、レンタルや運営メンバーの私物を活用し、広報は SNS を活用することで、助成金を消耗品に配分し事業遂行を目指します。	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
（活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。） 本活動は、単発のイベントに留まらず、二十四節気合わせた「まちの四季遊び」を年間プログラムとして定着させることで、地域コミュニティの日常的な拠点となることを目指します。活動を通じて募った地域住民や協力農家さんに「サポーター」として加わっていただき、地域全体で無理なく継続できる体制を整えます。また、活動を Instagram 等で発信することで、地域内での認知度を高めるとともに、共感する層が外からも緩やかに集まり、地域が活性化していく仕組みを構築します。波及効果として、伝統行事や茶菓子文化を介した多世代交流が生まれ、昔ながらの知恵を次世代へ繋ぐ「地域の縁側」が再生されます。地産地消を通じた農家さんとの顔の見える関係は、住みよい環境づくりに寄与するだけでなく、子どもたちが地元の老舗や文化に誇りを持つきっかけとなります。母親たちが主体となり地域の資源を活かした文化体験の場を創り出すことで、共に支え合うまちづくりの輪が自然と広がっていく未来を目指します。	

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
竹とお結び(5月9日)	竹細工ワークショップの講師兼、竹細工用の竹調達依頼
パレットニュー(4月30日)	会場利用希望

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2026	4	企画構想	団体内で検討会議
	5	申請書提出	
	6	助成決定後打合せ	日程を決定し具体的な打合せ
	7	広報と準備	活動の告知と地域への周知、協賛募集
	8	夏祭りマルシェ	・竹の器と箸を作り竹で流しそうめん ・無添加お菓子やエコ花火が景品の射的や千本引き等の遊びブース・無農薬スイカ割り・無農薬梅シロップかき氷・盆踊り等を予定
	9	反省会	振返り改善点を確認
	10	企画構想	日程を決定し具体的な打合せ
	11	広報と準備	活動の告知と地域への周知、協賛募集
	12		
2027	1	初めての味噌づくりワークショップ	・初心者向けのキットを使用した味噌づくり ・味噌作りや発酵を知り発酵にちなんだドリンクと茶菓子体験
	2	反省会	振返りと改善点を確認、活動実績報告書の作成
	3	次年度計画	

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照	活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円			50,000
活動経費の内訳	消耗品費	夏祭りマルシェ イベント景品 (菓子、花火、文具等)	10,000
		夏祭りマルシェ 祭り製作資材購入費 (画用紙、麻紐、文具、テープ、布 段ボール等)	10,000
		味噌作り 参加者への飲料 ワークショップで使う茶菓子	10,000
	報償費謝金	夏祭りマルシェ 竹講師への謝礼(2人分)	20,000
	交通費	夏祭りマルシェ 竹講師の交通費と駐車場代	5,000
支出合計			55,000

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

